



2007年09月25日
独立行政法人海洋研究開発機構

地球深部探査船「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画（速報） ～研究航海開始のお知らせ～

海洋研究開発機構（理事長 加藤康宏）の地球深部探査船「ちきゅう」は、統合国際深海掘削計画(IODP)※1による最初の研究航海となる「南海トラフ地震発生帯掘削計画」を実施するため、平成19年9月21日16時、和歌山県新宮市新宮港から紀伊半島沖（新宮市南東沖約80km）の熊野灘の掘削海域（[図](#)）に向けて出港し、翌9月22日午前1時に最初の掘削地点であるNT2-03に到着し、パイロット孔の掘削準備作業を開始しました。

今後の主な予定は以下の通りです。

9月21日～11月16日	第1次研究航海（IODP Expedition 314）
11月17日～12月19日	第2次研究航海（IODP Expedition 315）
12月20日～平成20年2月5日	第3次研究航海（IODP Expedition 316）
2月5日	新宮港入港

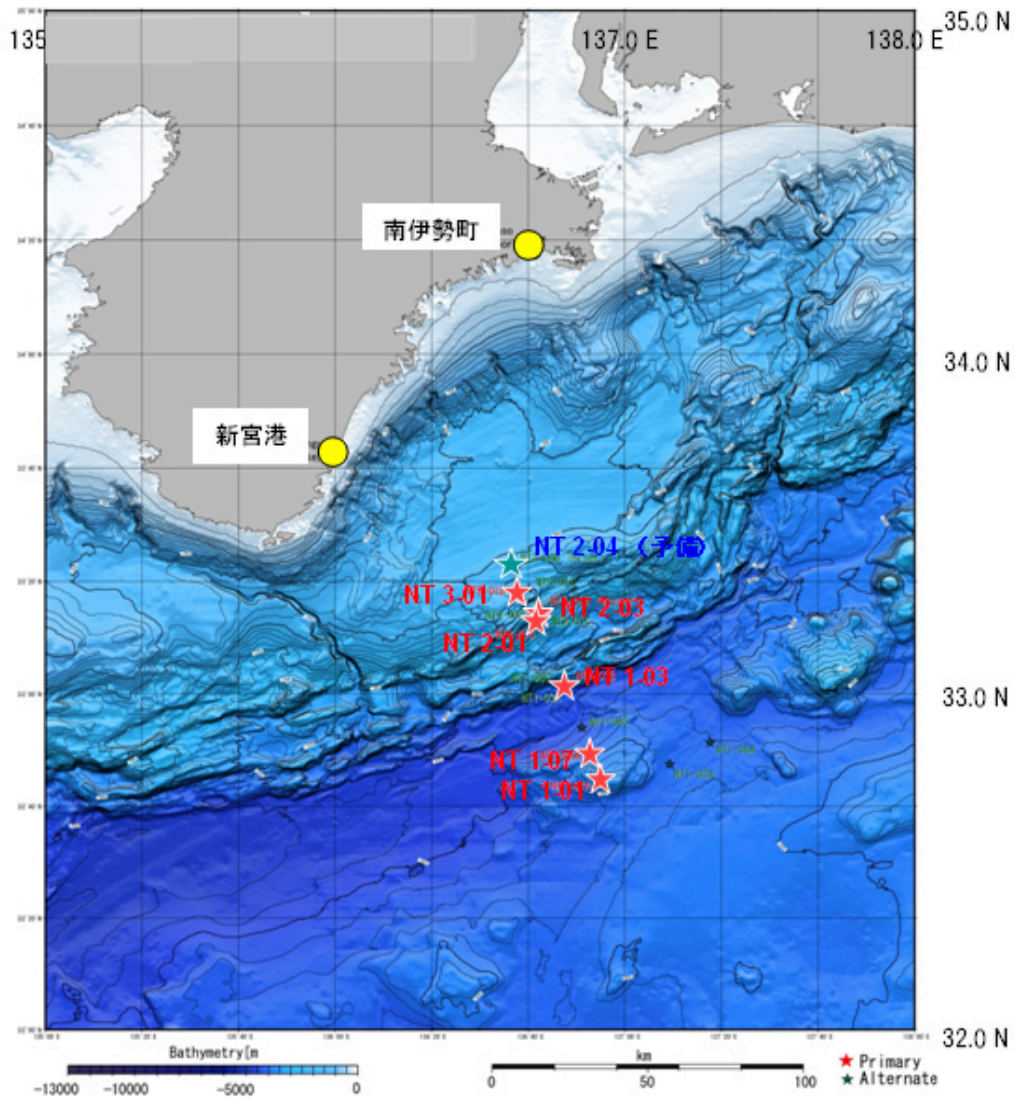
※上記の予定は海気象等の状況によって変更することもあります。なお、「ちきゅう」の掘削作業の最新状況は、下記URLの当機構ホームページで確認できます。

<http://www.jamstec.go.jp/chikyuu/jp/CHIKYU/status.html>

※1：統合国際深海掘削計画(IODP：Integrated Ocean Drilling Program)

日・米を主導国とし、平成15年（2003年）10月から始動した多国間国際協力プロジェクト。現在、欧、中、韓の21ヶ国が参加。日本が建造・運航する地球深部探査船「ちきゅう」と、米国が運航する掘削船を主力掘削船とし、欧州が提供する特定任務掘削船を加えた複数の掘削船を用いて深海底を掘削することにより、地球環境変動、地球内部構造、地殻内生命圏等の解明を目的とした研究を行う。

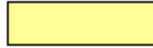
(図)



図：掘削海域図

本年度に実施予定のステージ1掘削予定地点と目標深度

掘削地点	緯度 (北緯)	経度 (東経)	水深 (m)	掘削孔及び掘削予定深度(m)(○内の数字は掘削予定順を示す)				
				パイロット孔	LWD孔	試料採取-1	試料採取-2	上部孔井設置
NT3-01	33° 18.0′	136° 38.2′	1,970		(5)1,400			
NT2-03	33° 14.3′	136° 42.7′	2,180	(1)1,000	(4)1,000	(9) 600	(10)1,000	(11) 700
NT2-01	33° 13.4′	136° 42.1′	2,390		(6)1,000	(14) 600	(15)1,000	
NT1-03	33° 01.6′	136° 47.6′	3,830	(2) 950	(7) 950	(12) 600	(13) 950	
NT1-07	32° 49.7′	136° 52.9′	4,060		(8)1,200			
NT1-01	33° 44.9′	136° 55.0′	3,610		(3) 600			
NT2-04	33° 23.1′	136° 36.5′	2,000					



第1次研究航海(IODP Expedition 314)で実施予定



第2次研究航海(IODP Expedition 315)で実施予定



第3次研究航海(IODP Expedition 316)で実施予定

※これらの数値は行動の進捗状況や
海気象状況等により変更がありうる。

お問い合わせ先

(「ちきゅう」、掘削試験について)

地球深部探査センター

企画調整室長 田中 武男 TEL : 045-778-5640

(報道について)

経営企画室

報道室長 大嶋 真司 TEL : 046-867-9193